

シニア 居場所作り 第一歩

自治体が「地域デビュー」講座

高齢者の孤立を防ぐべく、自治体などが退職後の世代を対象に様々な講座を開いている。男女とも平均寿命が80歳を超え、60歳で定年退職すれば、20年以上の時間がある。講座を通して緩やかな人間関係をつくり、「地域デビュー」を後押しする狙いだ。

料理や清掃

1月の平日朝、兵庫県伊丹市立中央公民館の調理室で三角巾をつけた男性が、パン生地をのぼしたり丸めたりしていた。ロールパン



①生地からシニャを作るシニア向けの講座に参加した人たち。11月、兵庫県伊丹市ボランティア活動のやりがいについて意見を交わす講座に集まった高齢者ら。11月、京都市長岡京市

とシニャを作る講座だ。

「きれいにまとまりましたね」

「俺、才能あるかも」

公民館がシニアの男性を対象に初めて開いた「シニャが!!」と云わせるオヤジさんみぎき塾」の最終回。6回の講座で参加費は計1700円。地域デビューに向けた心構えのほか、水回り清掃の仕方なども習ってきた。

この日は50〜70代の5人が参加。最年長の土井一雄さん(76)が「顔見知りになつてこれださようならでは寂しい。また集まりません

こうした高齢者向けの講座では、兵庫県が1969年に開いた果いなみ野学園(現在は公益財団法人が設置)が先駆けとして知られる。名古屋市の高年大学、城学園や広島市社会福祉協議会のシニア大学のほか、大阪府高齢者大学は修了生らによるNPO法人が運

人との緩やかなつながり大切

孤立死懸念

伊丹市は大阪、神戸のベッドタウン。65歳以上の割合を示す高齢化率は25・3

か」と呼びかけ、後日飲み会を開くことになった。土井さんは広告会社に勤めた後、コンサルタントなどをしていたが、4年間介護した妻を2年前に亡くした。「カレンダーを見たら、自分が病院に行く日しか予定が入っておらず、これはまずいと思った」と講座通いを始めた。尼崎市の元会社員豊田修己さん(60)は昨年定年退職し、妻に背中を押されて来た。習った包丁研ぎを実践していると、1年がいった男の人をどうするか、行政上も問題でしようね」と話す。

ていっかが課題」と話す。大阪と京都のベッドタウンの京都市長岡京市では高齢者が様々なグループを作って活動している。



定年後の暮らし方について、大阪市内でカウンスリンググループを開くシニア産

業カウンスラーの吉岡俊介さん(68)は最近、自治体から中高年男性対象のセミナーの講師依頼が増えた。伊丹市でも初回の講師を務めたが、定年後も周囲と「緩くつながっていくことが大切」と指摘する。大手損保会社に勤め、海外勤務や課長職も経験した

吉岡さんは「心に硬いよるいをまどつて開ってきた男たちが、家庭や地域になじめるよう、思考を転換させるのは難しい」と実感を交えて話す。「会社のつながりしか持たなかった人は退職後に孤独になる。本音はつながりたくても、方法がわからない。まずは行政が講座などを開いてきっかけを作ることも効果的だ」と話している。(土田真由美)